

株式会社 エーワン精密
平成21年6月期決算説明会

平成21年6月期 決算説明会資料目次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
① 事業内容・特色	2
② コレットチャック部門	3
③ 自動旋盤用カム部門	4
④ 切削工具部門	5
(2) 決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① コレットチャック部門	10
② 自動旋盤用カム部門	11
③ 切削工具部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

13,500社以上の顧客からリピートオーダーが入る

コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

NC旋盤 3,026億円(2008年生産額) 約2.5万台

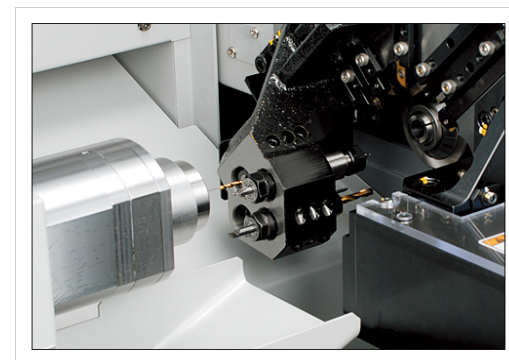
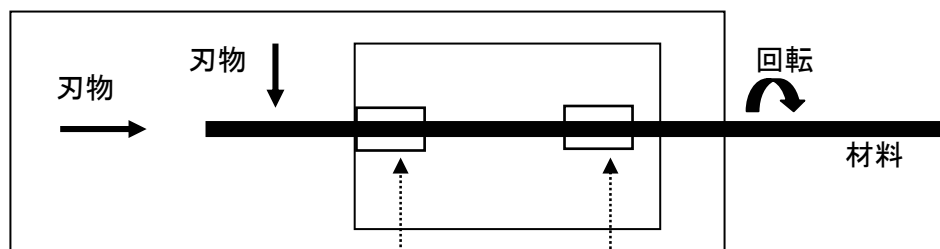
うち CNC自動旋盤 約900億円(2008年推定生産額) 約9,000台

主なCNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ、ミヤノ、高松機械、野村精機

特殊コレットチャック

専用機 1,286億円(2008年生産額) 約4,450台



加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など

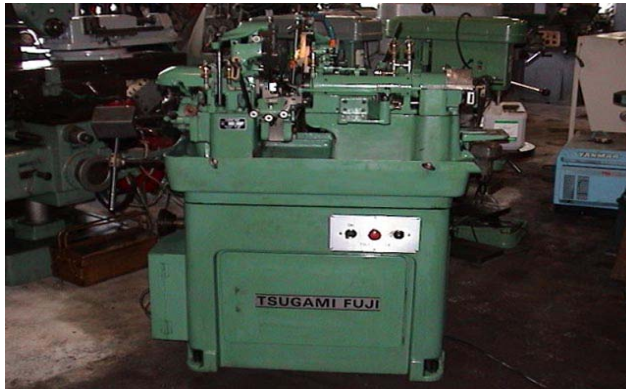


自動旋盤カム部門

カム式小型自動旋盤で使用するカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

機械のイメージ写真



加工の様子



加工部品のイメージ写真



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター 3,717億円(2008年生産額) 約15,700台
NCフライス、中ぐり盤 257億円(2008年生産額) 約 1,070台

使用される工具

超硬エンドミル 366億円(2008年生産額)
超硬ドリル 358億円(2008年生産額)
その他超硬工具 483億円(2008年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

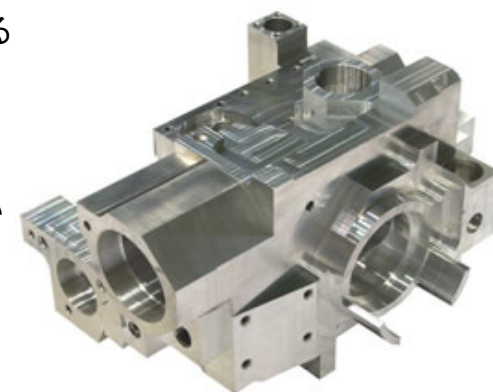
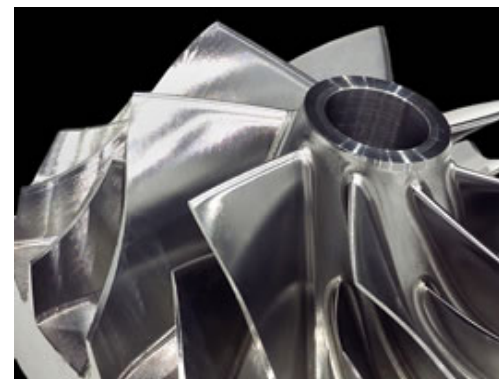
オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



決算概要

売上	昨年末ころより景気後退による大規模な生産調整により当社の受注急減 すべての事業部門で減産の影響を受ける 上期は前期比微減で推移、下期は前期比半分以下で推移
原価	売上の急減による固定費負担増(ここ数年の設備増強による減価償却費増) 業績連動の賞与は減少
利益	営業利益率は上期前年並み、下期営業利益はほとんどなし
その他	株式相場下落により有価証券評価損 328百万円を計上

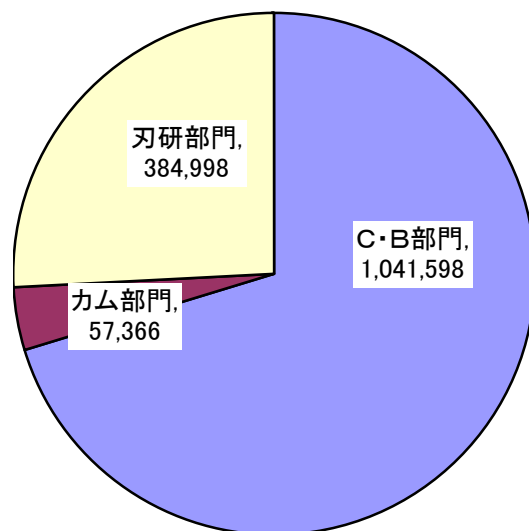
人件費

	18期	19期
労務費	569,163	460,599
コストに占める比率	52.0%	50.1%

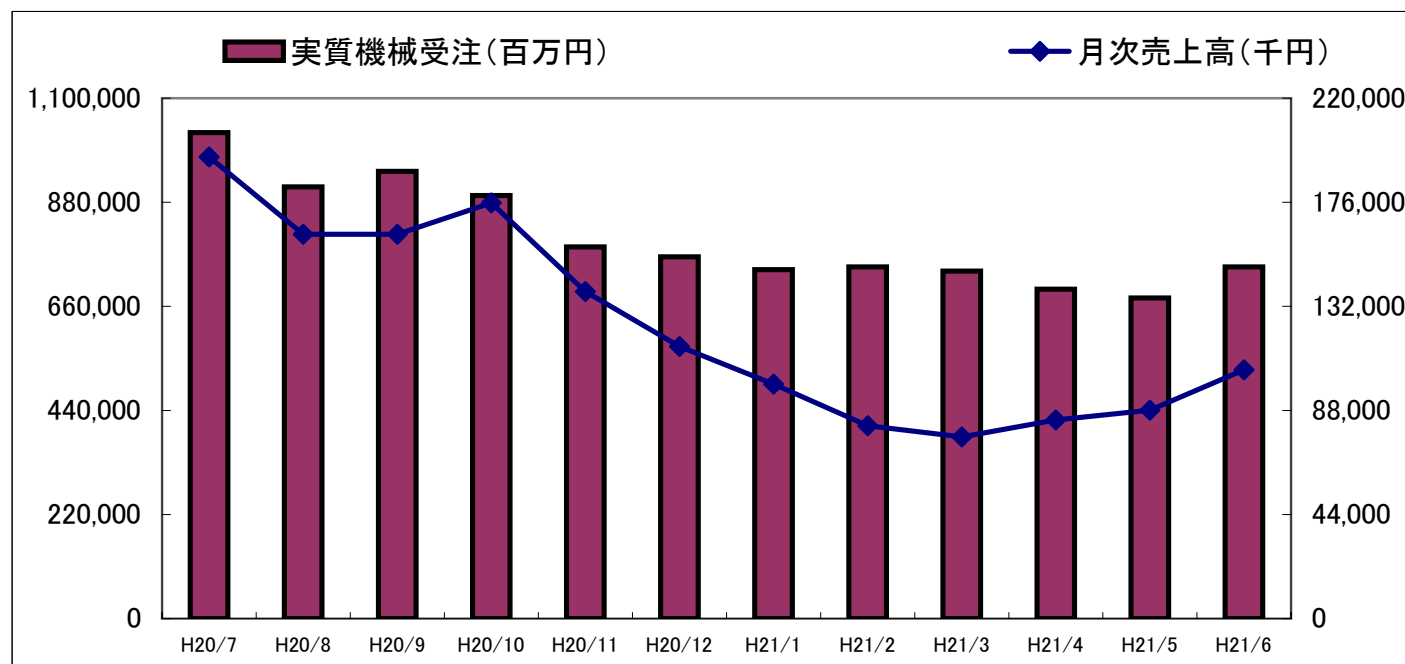
設備投資額と減価償却費

	17期	18期	19期
設備投資額	319,382	196,955	513,931
減価償却費	158,136	194,751	210,917

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成 21年 6 月期 損益の状況

(単位：千円)

	平成 20 年 6 月期			平成 21 年 6 月期			増 減 要 因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							下期に入り全ての事業部門で対前年同期比40～50%程度で推移した。下期は上期の約半分の売上に留まった。
コレットチャック	1,557,987	71.2%	94.5%	1,041,598	70.2%	66.9%	
自動旋盤用カム	102,015	4.7%	84.7%	57,366	3.9%	56.2%	
切削工具	526,353	24.1%	119.0%	384,998	25.9%	73.1%	
合 計	2,186,356	100.0%	98.9%	1,483,963	100.0%	67.9%	
売上原価	1,072,306	49.0%	103.2%	892,763	60.2%	83.3%	コストに占める固定費の比率が上昇。外注加工費、消耗品費は減少。業績連動の賞与などは減少。
売上総利益	1,114,049	51.0%	95.0%	591,200	39.8%	53.1%	
販売費及び一般管理費	319,450	14.6%	98.3%	266,666	18.0%	83.5%	
営業利益	794,598	36.4%	93.8%	324,533	21.8%	40.8%	上期分がそのまま残り下期積み上げはほとんどなし。
経常利益	822,779	37.6%	86.7%	345,984	23.3%	42.1%	営業外収益に受取利息・配当金分がプラス。
当期純利益	487,817	22.3%	86.8%	1,505	0.1%	0.3%	特別損失に有価証券評価損を計上。

平成 21年 6 月期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	平成20年6月期		平成21年6月期		増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	2,345,216	32.9%	2,434,182	36.0%	
売上債権	487,043	6.8%	222,724	3.3%	売上高減少に伴い売掛金が [△] 169,358千円、受取手形が [△] 94,962千円減少
棚卸資産	194,804	2.8%	218,337	3.2%	仕掛品が [△] 27,186千円増加
その他流動資産	822,656	11.6%	717,700	10.6%	切削工具新工場の建設仮勘定が [△] 317,604千円増加、有価証券が [△] 189,758千円減少 下期利益の減少により未収還付法人税等を117,006千円計上
固定資産	3,272,020	45.9%	3,168,944	46.9%	
資 産 合 計	7,121,741	100.0%	6,761,890	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	17,154	0.2%	5,491	0.1%	仕入・外注加工費の減少に伴い未払金が40,614千円、未払法人税等が [△] 112,997千円減少
その他流動負債	229,072	3.2%	48,728	0.7%	
固定負債	259,416	3.7%	275,401	4.1%	退職給付引当金が14,595千円増加
負 債 合 計	505,643	7.1%	329,621	4.9%	
純資産合計	6,616,097	92.9%	6,432,268	95.1%	繰越利益剰余金が [△] 456,470千円減少(別途積立金 300,000千円の積立と配当金支払い 162,000千円など) その他有価証券評価差額金が [△] 23,335千円減少
負債・純資産合計	7,121,741	100.0%	6,761,890	100.0%	

キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	平成20年6月期	平成21年6月期	対前年比増減額	増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	515,875	463,938	▲ 51,937	主な増加要因：税引前当期純利益 23,137千円、売上債権の減少額 264,318千円、減価償却費 210,917千円 主な減少要因：法人税等の支払額 253,528千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 774,940	▲ 566,020	208,920	主な増加要因：有価証券の償還による収入 1,500,000千円 主な減少要因：有価証券の取得による支出 1,497,922千円 有形固定資産の取得による支出 513,931千円 定期預金の純増額 53,280千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 167,953	▲ 162,231	5,721	全額配当金の支払い額
現金及び現金同等物の増減額	▲ 427,018	▲ 264,314	162,704	
現金及び現金同等物の期末残高	1,237,303	972,989	▲ 264,314	

今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門

事業環境

- ◇金属部品加工の微細化・精密化の進展
- ◇大量生産品や高精度を要求されない部品は海外生産へ
- ◇工具の売上は機械稼働率とほぼ連動

競合状況

- ◇国内は数社、中国等の工具メーカーの台頭（納期・品質で不安定）

当社の事業展開

- ◇専用機・NC旋盤向け特殊コレットチャックの対応力向上
- ◇顧客の要望の充足、納期・品質の徹底

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

- ◇1億円の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

今後の事業展開 ～ 切削工具部門

事業環境

- ◇加工複雑化に伴い特殊刃物ニーズ拡大
- ◇高価な超硬工具普及により再研磨ニーズ増大
- ◇加工工程短縮・効率化を図るため、高精度の特殊切削工具へのニーズが高まる

競合状況

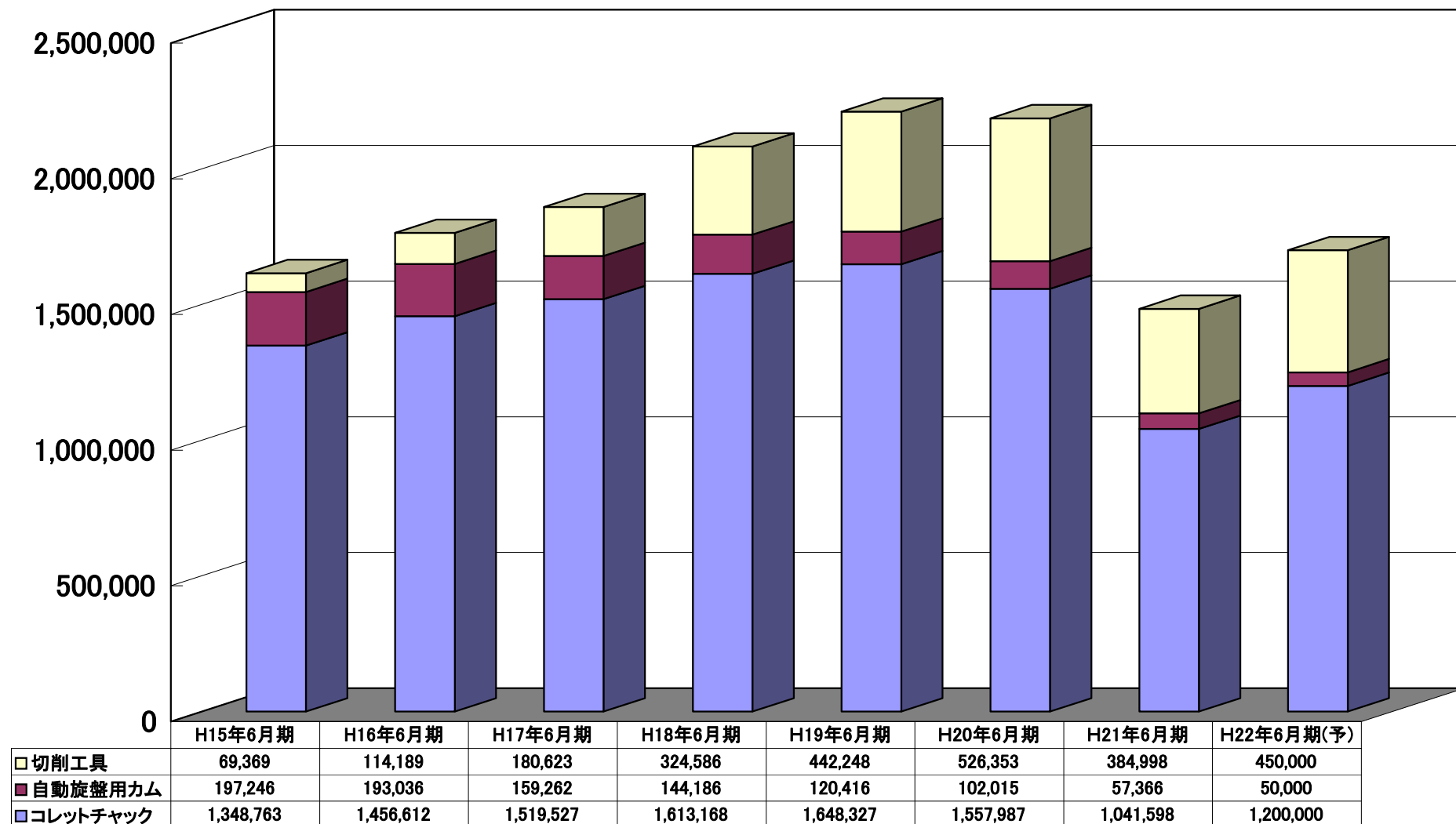
- ◇市場規模推定250億円
- ◇メーカー系、工具商社、各地域ごとに中小規模専門多数

当社の事業展開

- ◇営業地域拡張し、知名度・認知度向上を目指す
- ◇特殊ものへ対応範囲を拡大し、新たな顧客層の拡大に努める

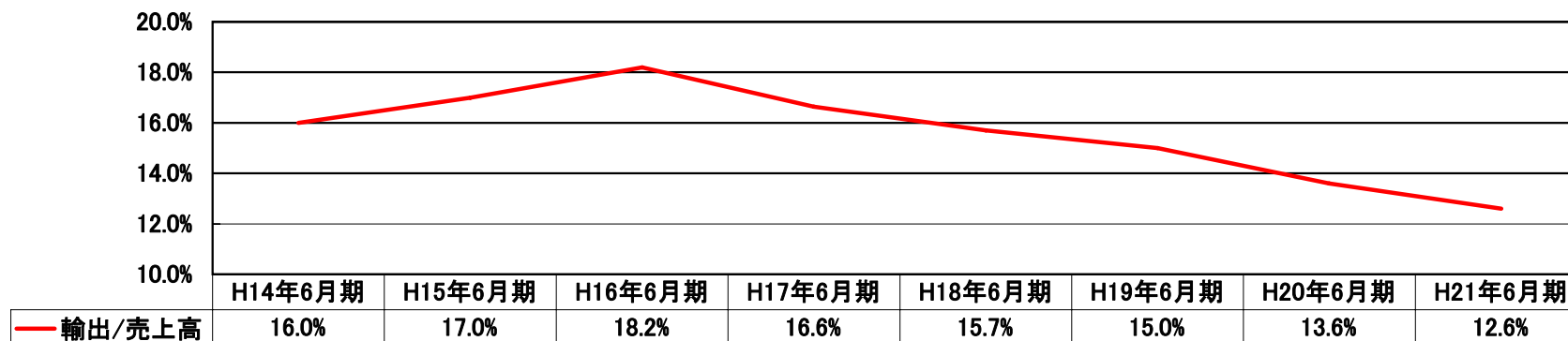
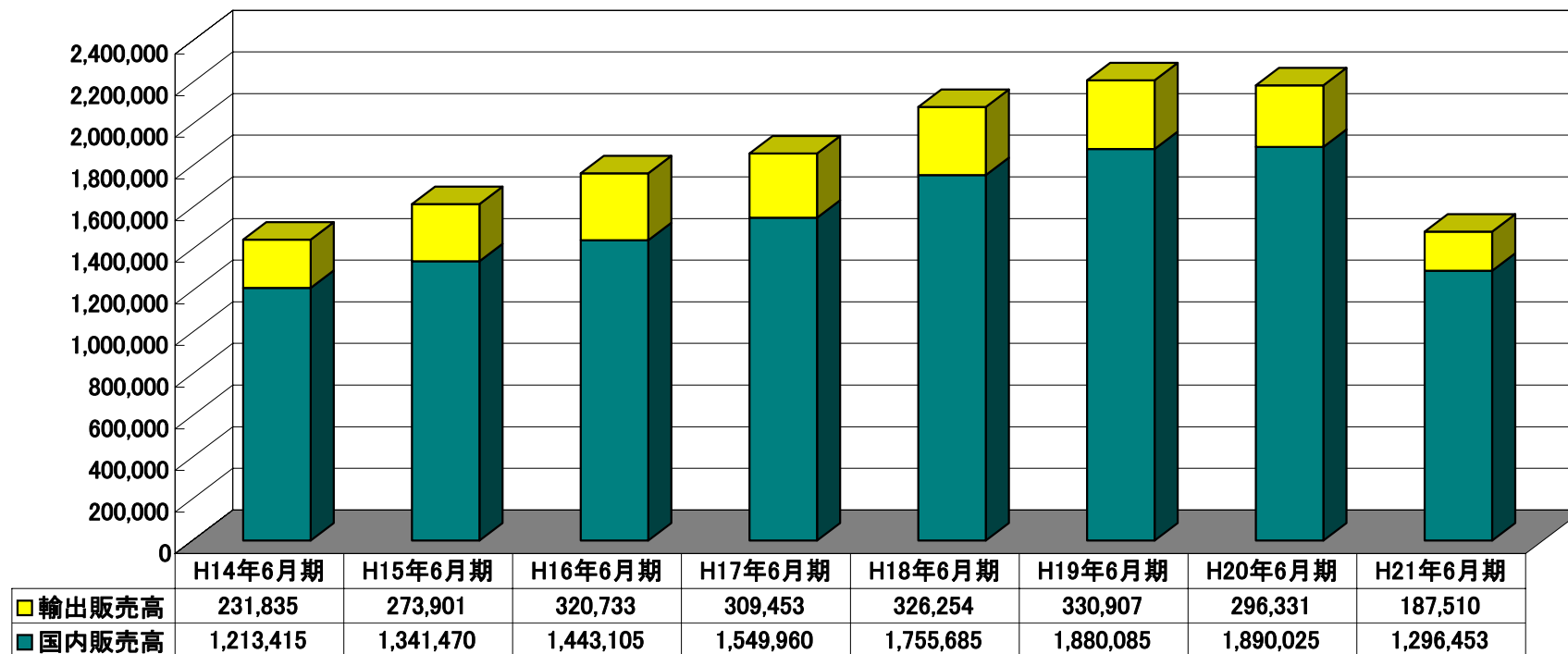
部門別売上状況

(単位：千円)



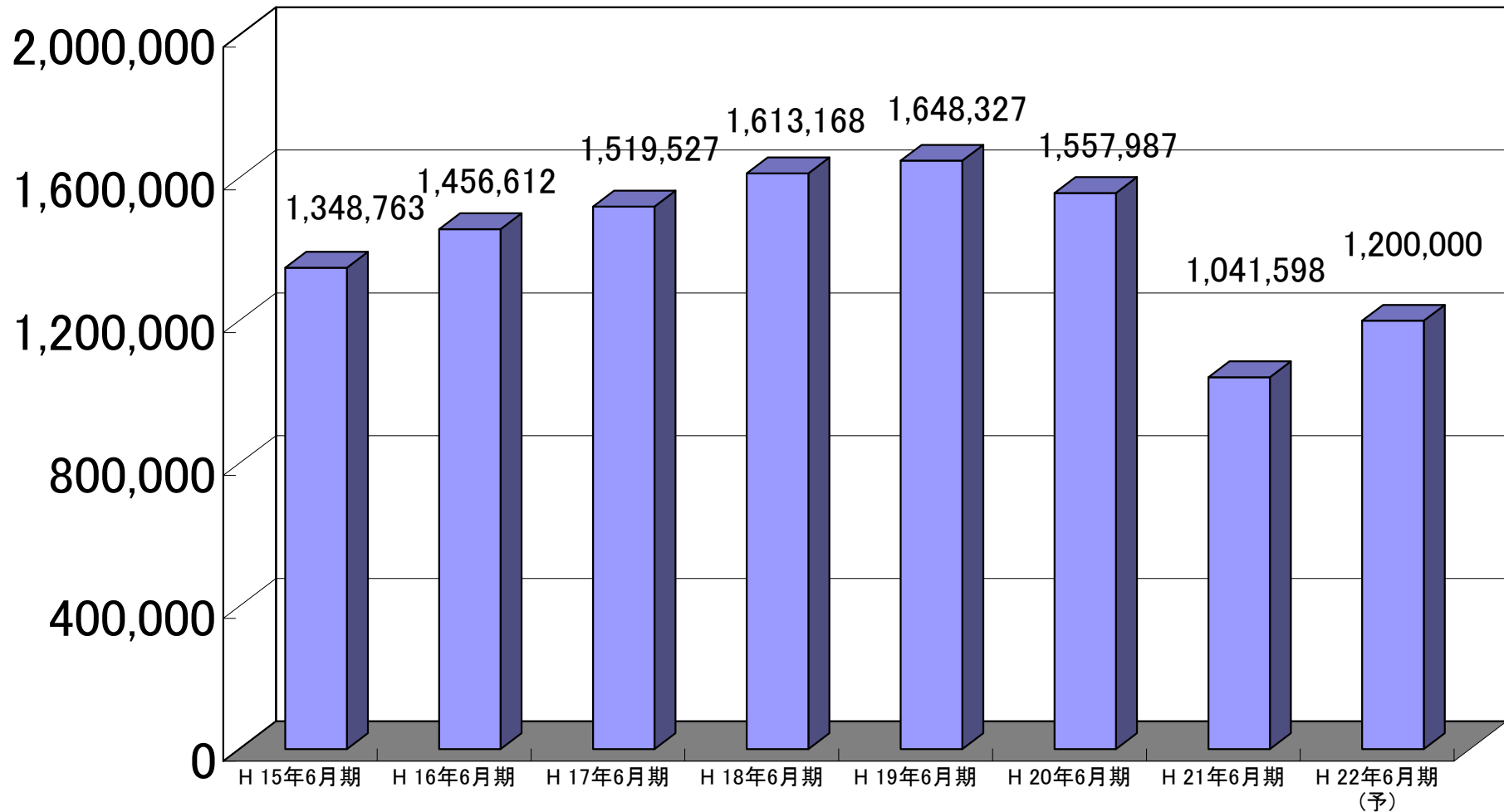
輸出売上状況

(単位：千円)



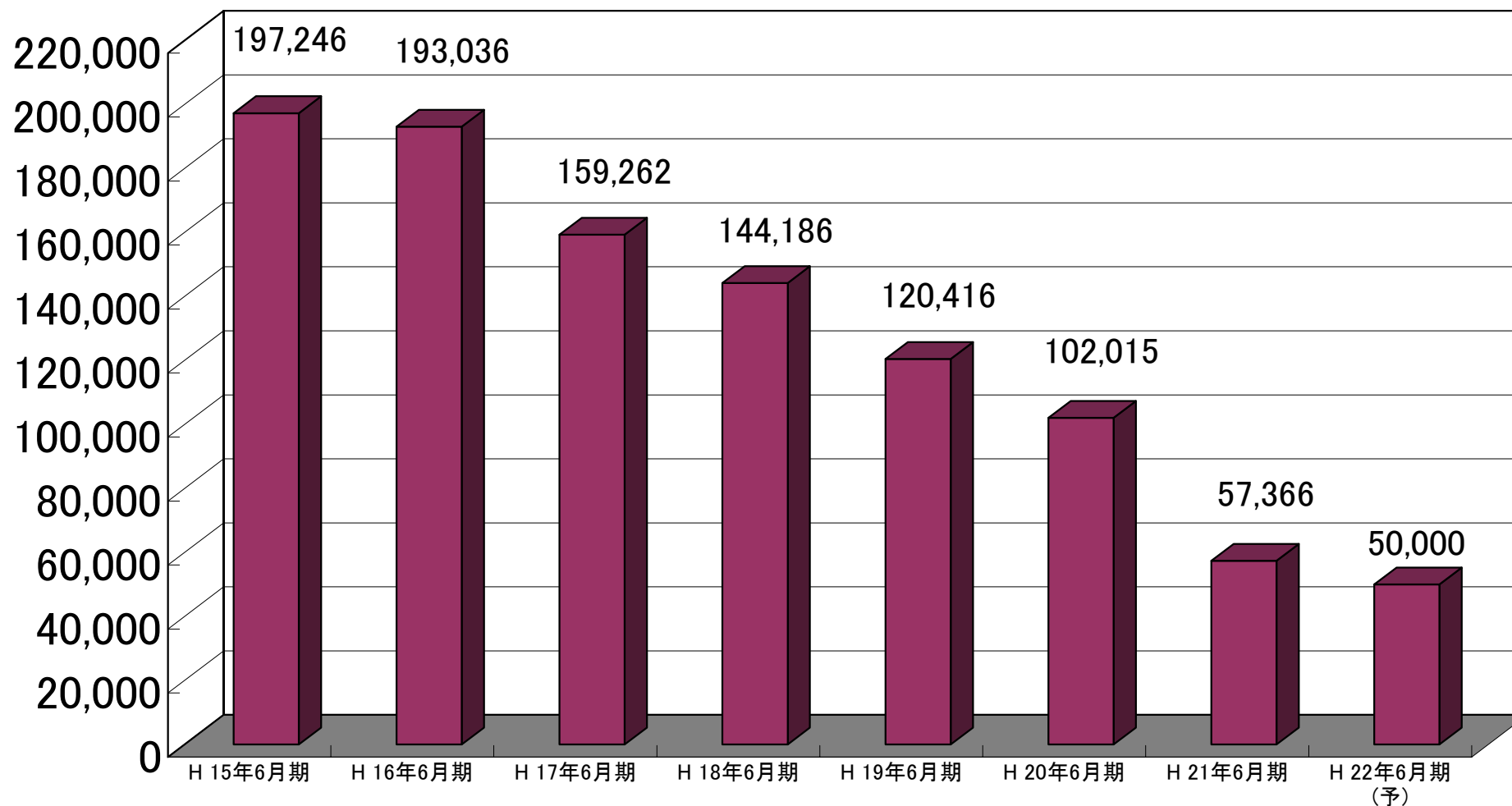
部門別状況 ～ コレットチャック部門

売上高(単位:千円)



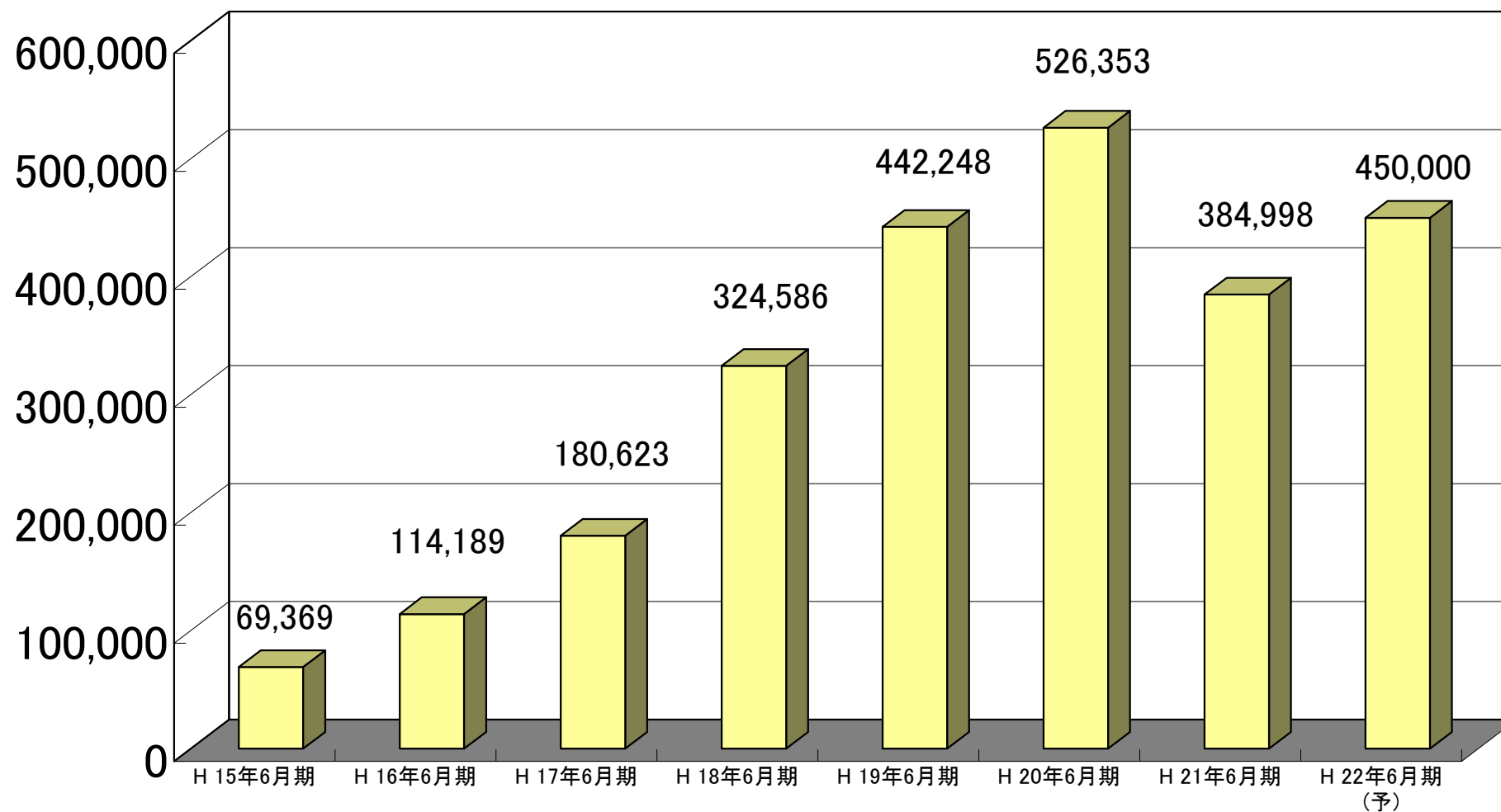
部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 切削工具部門

売上高(単位:千円)



設備投資と減価償却

	H17年6月期	H18年6月期	H19年6月期	H20年6月期	H21年6月期
設備投資額 (単位:千円)	144,236	153,724	319,382	196,955	513,931

	H17年6月期	H18年6月期	H19年6月期	H20年6月期	H21年6月期
減価償却費 (単位:千円)	140,994	146,369	158,136	194,751	210,917

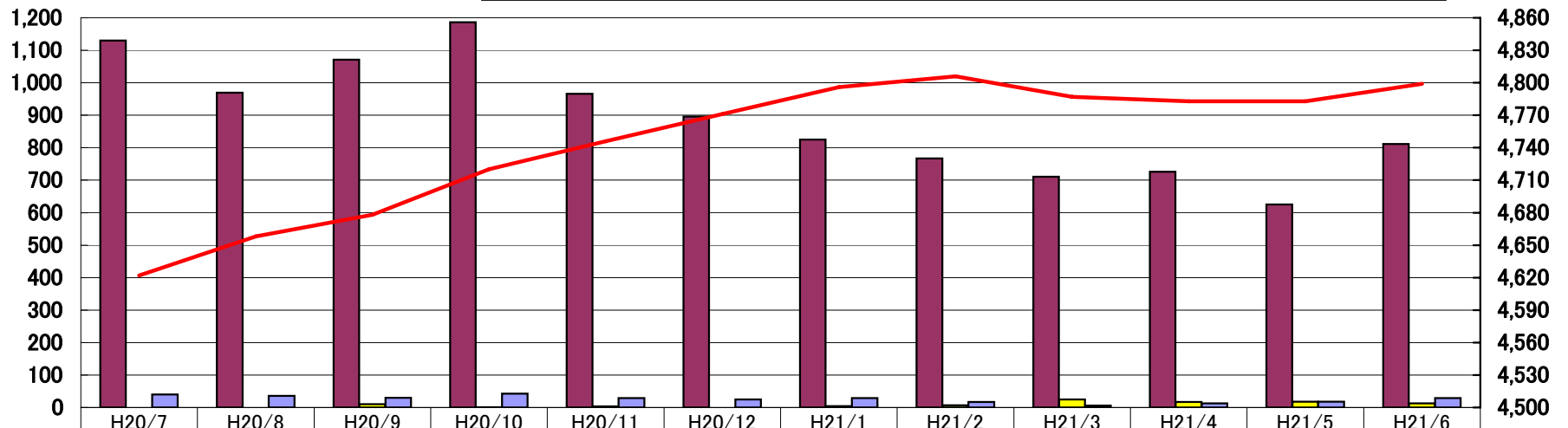
切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

切削工具部門の受注状況

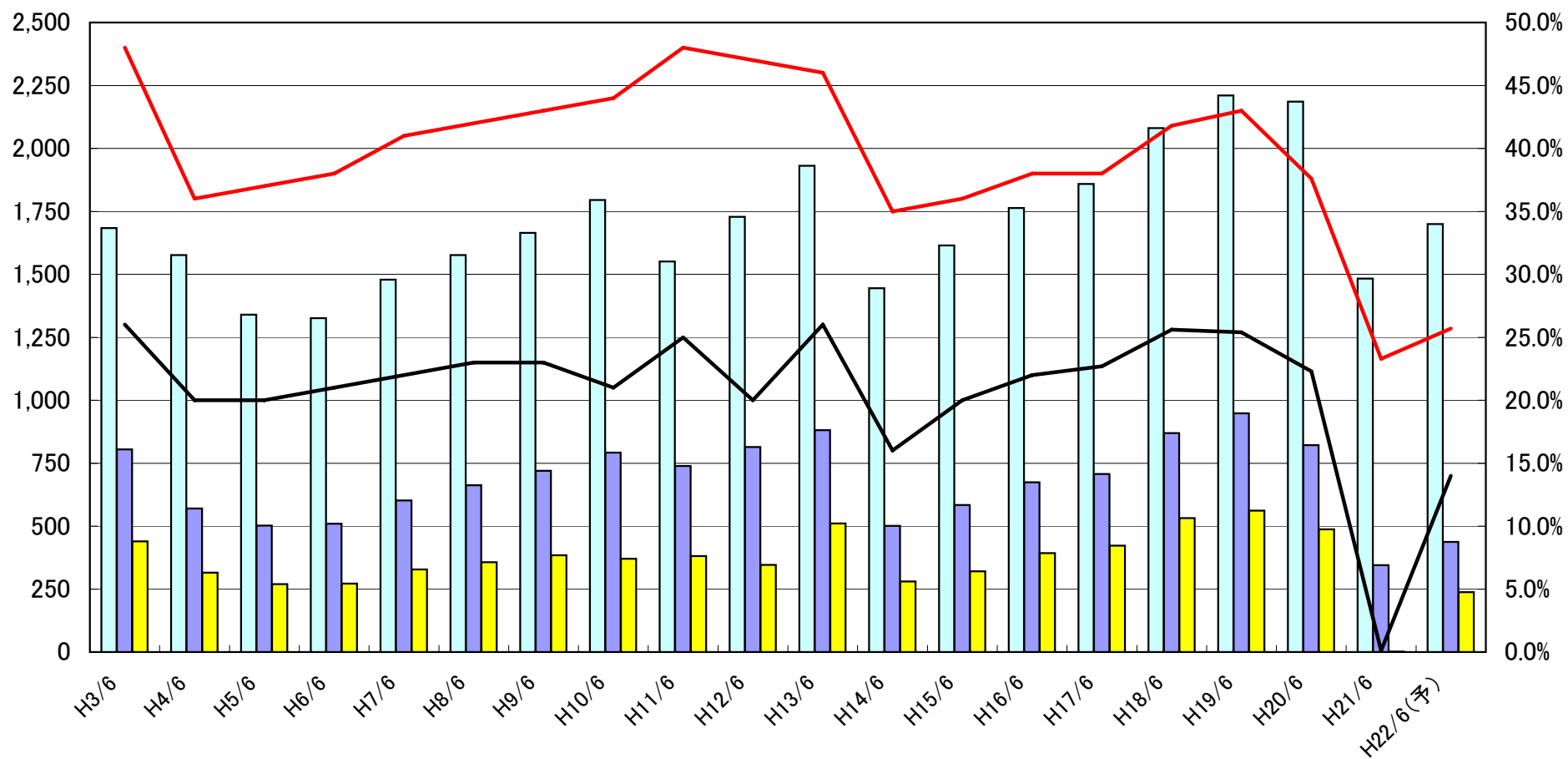


	H20/7	H20/8	H20/9	H20/10	H20/11	H20/12	H21/1	H21/2	H21/3	H21/4	H21/5	H21/6
月間受注件数	1,130	969	1,071	1,186	966	896	825	767	711	726	625	811
抹消顧客数	0	0	10	1	3	0	4	7	25	17	18	13
新規顧客受注	40	36	30	43	29	25	29	17	6	13	18	29
顧客総数(右軸)	4,622	4,658	4,678	4,720	4,746	4,771	4,796	4,806	4,787	4,783	4,783	4,799

業績の推移

単位:百万円

■ 売上高
 ■ 経常利益
 ■ 当期純利益
 — 売上高経常利益率
 — 売上高当期純利益率



実質機械受注と月次売上高

